

# 令和五年度 第一回 中学入学試験

## 国語

試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

### 注意事項

1. 問題冊子と解答用紙を回収するので、両方に受験番号・氏名を記入すること。
2. この問題冊子は、13 ページあります。
3. 問題冊子や解答用紙によごれや印刷されていないところがあったら、手を挙げて試験監督かんとくを呼ぶこと。
4. 解答はすべて、解答用紙へ記入すること。

受 験 番 号			

氏 名



《一》次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

じいちゃんの畑の敷地が右に見えてきた。それを横目にしばらくこぎ続け、ようやく畑の入り口に着いた。「西村みかん園」という古い看板が立っている。昔、一時期だが、観光農園を併設していたときの名残らしい。畑の入り口は車がとめられるようになっていて、奥には倉庫や水道やベンチもある。

でも軽トラはなかった。じいちゃんは畑に来ていないらしい。  
拓海は力が抜けた。バカみたいだ。

もう暑くてたまらない。シャツを指でつまんで揺らしながら畑を見下ろした。

みかんの木は、木と呼ぶには貧弱だ、いつも思う。

背丈は大人よりやや高いくらい。細い幹から伸びた枝に、平凡な形の葉っぱが、もさもさと茂っている。

そんな木が、隣の木の枝と重ならないようにして一列に並んでいる。少し降りたところにまた一列、その下にさらに一列、もう一列と続き、その向こうには瀬戸内海が広がっている。

目を凝らすと、さつき通った海沿いの道路が建物のあいだに少し見えた。車が動いているのもわかる。

これから橋を渡って買い物に行くのかもしれない、と拓海は思った。

①この島はわりと大きく、コンビニもスーパーもホームセンターもある。過疎化しているが小、中学校はまだ複数あり、高校もある。

でもそれ以上の店や学校に行こうとすると、車で数分の橋を通り、「本土」に行かなくてはいけない。

拓海がこの島に引越してきたのは中二の二期だった。

それまではこの島から車で一時間半の街に住んでいた。電車が通っていて、中心地にはデパートや映画館がある地方都市だ。でもこの島出身の父さんはずっと島に帰りたがっていて、島のホテルに転職できたのを機に

引つ越した。拓海はすごく嫌だったが、どうしようもなかった。

この島は橋でつながっているんだし、ふつうの郊外とそう変わらないと言う島の人もいるが、全然違ふと拓海は思う。電車もなく、店も選べない。橋を渡らないと外に出ることができないなんて閉じこめられているみたいだ。

そのとき、畑の中で何か白いものが動いた。

白い帽子だ。誰かがみかんの木のあいだを歩いてるらしい。

じいちゃん？ 軽トラはないが、やっぱり来ているのか。

畑に降りると、二段目のみかんの木の並びにその人はいた。② 女の子だ。白いキャップ帽をかぶり、長袖のTシャツにジーンズをはいている。

びっくりして拓海が立ち止まると、その子も気がついたらしく、ぱつと振り返った。

二人は一瞬、無言で見合った。

「みかん、好き？」

突然、女の子が言った。

「え？」

「私は大好きなのじゃ。食べすぎて、冬になると全身が黄色くなるくらい」

ほら、と袖をまくった。

「最初は手のひらや足の裏が黄色くなるけど、そのうち手の甲や足の甲も黄色くなって、さらに食べ続けたら、顔もお腹も黄色くなるのじゃ。といっても、今は春だからだいぶ薄くなっただけ。冬はもつと黄色かったのじゃ」

何を言ってるんだらう。③ 拓海はあとずさった。中学生か高校生に見える。でも見かけたことのない顔だ。

「そうじゃ」と、女の子が思い出したように手をたたいた。

「ここって、西村実みのさんのみかん園かどうか知ってる？」

「え、じいちゃんを知つとるん？」

「孫なの？」

女の子がぱつと笑顔になった。

「よかった。やつぱりここが西村実さんのみかん園なのじゃ」

そう言うと、斜なめにぶら下げたバッグから、定期券入れのようなケースを取り出した。透明な窓に、小さな白い紙が大切そうに広げられて入っている。

その紙には「商品名 温州えんミカン」と印刷された文字と、その下に生産地としてこの島の名前、さらにその下に「生産者 西村実」とじいちゃんの名前がある。

「このみかんを食べたとき、感激したのじゃ。すごく甘あまくて、びっくりするくらいおいしくて。今までいっぱい食べてきたけど、これまでの人生で一番おいしかったのじゃ」

「そのみかんにその紙が入つとったってこと？」

うん、と女の子は嬉うれしそうにうなずいた。

昔、島のみかん栽培さいばいがもつと盛さかんだところ、じいちゃんのみかんは島一番と言われていたと聞いたことがある。みかんは陽ひか当たりが良いほどおいしくなるそうだ。じいちゃんの畑も、太陽と、海面からの照り返しで抜群ばつぐんに陽が当たる。

でも、みかんは何十年も前に売れなくなつた。この島でも栽培する家は激減した。じいちゃんも数年前、畑を何分の一かに減らしたらしい。今では「わしの道楽みちがらじゃ」と言いながら一人でできる範囲はんいでやっている。そんなじいちゃんが個人名を出してみかんを出荷しかしているとは知らなかった。

「そのみかん、どこで売ったん？」

「年末にお母さんが家の近くで買ってきたのじゃ」

「家の近く？」

「東京じゃ」

④ えつ、と拓海は驚いた。

「ほんま？」

東京からわざわざここまで来たのか？

「ほんまじゃ」

女の子は元気よく言った。

もしかして観光客なのか。そう考えると、変な方言といい、つじつまが合う。

島は観光客を増やそうと頑張っている。景色、釣り、海水浴、みかん狩りなどを楽しんでもらおうとしている。ホテルや旅館や民宿もかなりの数がある。実際、父さんの勤めているホテルも客が増えているそうだ。平日は高齢者の団体旅行が多く、週末や長期休みには家族連れや若い人でにぎわうと言っていた。最近では外国からのお客さんも多くなってきたらしい。

「そうだ」と、女の子がまた思いついたように言うと、目の前のみかんの木の枝を指さした。

「この小さくて白くて丸いの、もしかして⑤ みかんの花？」

「あ、うん。花というか、まだつぼみだけだ」

気にしていなかったが、よく見ると、どの木も白いつぼみがついている。

「すごい！ これがみかんの花のつぼみ。ポップコーンがひっついていてみたいなのじゃ」  
女の子は嬉しそうだ。

「あつ」とまた言うと、足首が隠れるほどの草の中をずんずん歩き、隣の木の枝をまた指さす。

「これは咲いているのじゃ」

確かにそのつぼみは開いていた。

五枚の白い花びらが、細い指をぴんと伸ばしたように開いている。その白い花びらの真ん中には黄色い雌しべが大きく突き出ている。

女の子は花に顔を近づけた。

「いい匂い。みかんの花つて、みかんの皮をむいたときみたいな、もつと酸っぱい感じかと思ってたけど違うね。なんか、すつとしてて、でも甘い感じもして……、上品な香水のような香りなのじゃ」

そうかな。満開になると、畑の外にも匂いが漂ってくる。悪い匂いじゃないと思うが、香水だと思ったことではない。

それより何か変だ。そうだ、どうしてこの子はここにいるんだろう。じいちゃんのみかんが好きだからといって勝手に入っていいのか。

「あの、それより」

「なんじゃ？」

笑顔のまま女の子は拓海を見る。

「ひとの畑に勝手に入ったらいけないと思うけど」

⑥ 女の子はきよとんとする。

「だって私有地だし、作物を作っとるし」

女の子の表情が変わった。

「そうか、ほんとだ」

慌あわてて頭を下げる。

「ごめんなさい。すぐに出る」

女の子が歩き出そうとしたとき車の音がした。振り返ると軽トラが畑の入り口に入ってくる。

「あ、じいちゃん」

「えっ」

女の子が驚いた声を上げた。

じいちゃんが軽トラから出てきた。拓海が手を振ると、じいちゃんも気がつき、すぐに畑に降りてきた。

「どうしたん。拓海が来るなんて珍しいのう」

拓海の後ろにいる女の子に気がついた。

「ありや、その子は誰？」

「じいちゃんのみかんが好きなんだって」

「わしのみかん？」

じいちゃんは首をかしげた。

⑦ 女の子は緊張きんした顔をして頭を下げた。

(魚住直子『みかん、好き?』講談社)

問一、——線部①とありますが、拓海はこの島についてどう感じていますか。文中の言葉を使って五十字以内で答えなさい。

問二、——線部②とありますが、女の子がこのみかん園に来ようと思ったきっかけは何ですか。文中の言葉を使って二十五字以内で答えなさい。

問三、——線部③とありますが、この時の拓海の気持ちとして最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア、変な言葉づかいをするので、意味がよく分からず混乱している。
- イ、みかんを食べると体が黄色くなると言われ、不気味に思っている。
- ウ、中学生なのか高校生なのか分からず、対応の仕方になやんでいる。
- エ、見ず知らずの女の子から一方的に話をされ、困っている。
- オ、ふだんあまり女の子と話す機会がないので、緊張している。

問四、——線部④とありますが、それはなぜですか。最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア、みかんのために東京から来たというのが意外だったから。
- イ、東京からこの島に観光客がやって来るのは珍しかったから。
- ウ、東京の人なのに変な方言を話しているのがおかしかったから。
- エ、じいちゃんが東京でみかんを売っていたのを知らなかったから。
- オ、東京にはもっとおいしいみかんがたくさんあると思ったから。

問五、——線部⑤とありますが、女の子はみかんの花の見た目と匂いを何に例えていますか。それぞれ文中から五字程度でぬき出しなさい。

問六、——線部⑥とありますが、それはなぜですか。最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア、「ひと」というのが誰を指しているかわからず、不安になったから。
- イ、目の前の拓海が急に話を変えたので、不思議に思ったから。
- ウ、拓海にいきなり注意されたことで、いら立ちを感じたから。
- エ、拓海が自分と話したくないことがわかり、悲しくなったから。
- オ、拓海に言われたことをとっさに理解できず、とまどったから。

問七、——線部⑦とありますが、それはなぜですか。最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア、勝手に畑に入ったことをおこられると思ったから。
- イ、どうしても会いたかった人によく会えたから。
- ウ、何を言われるのだろうかかと急に不安になったから。
- エ、おいしいみかんの作り方をこれから教えてもらおうから。
- オ、何を話したらいいか分からなくなってしまうから。

問八、次の1～5のうち、本文の内容と合っているものには○、合っていないものには×を付けなさい。

- 1、拓海は中学生の時に、ある地方都市からこの島に引っ越してきた。
- 2、拓海はじいちゃんのみかん作りに興味があり、よく手伝っている。
- 3、拓海の父親は生まれ育った島のホテルで働いている。
- 4、拓海の前に急に現れた女の子は、拓海よりも年下であった。
- 5、拓海はじいちゃんのみかんは島一番だと思っている。

問九、今、日本ではみかんを食べる人が減り、以前より売れなくなっていると言われていますが、それはなぜだと思いますか。また、売れるようにするにはどうすればよいと思いますか。理由もふくめてあなたの考えを書きなさい。

《二》 次の1～5の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1、イギをとなえる。
- 2、クラブにシヨゾクする。
- 3、エンゲキのレッスン。
- 4、道に落ちているごみをヒロウ。
- 5、勇気をフルウ。

《三》 次の1～5の——線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- 1、思いやりの心を絶やさなさい。
- 2、人命を救う。
- 3、山を望む。
- 4、昼食を持参する。
- 5、小鳥をかごから放つ。

《四》 次の1～5の——線部の言葉の使い方が正しければ○、まちがっていれば×を付けなさい。

- 1、急に話しかけられたのでげんな顔をしてしまった。
- 2、妹はたかをくくってしつかり準備した。
- 3、職人さんがたんせいこめて作った置物。
- 4、どんな時でもものおじせずに行動する。
- 5、うまくいかないので水をさして成功に導いた。

《五》 次の1～3のそれぞれの言葉を、国語辞典に出てくる順に並びかえ、記号で答えなさい。

1  
ア、テディベア  
イ、デイベート  
ウ、テーブル

2  
ア、接続語  
イ、せつかち  
ウ、セール

3  
ア、校歌  
イ、氷  
ウ、声

《六》 次の1～4の漢字の音読みをそれぞれ二つ答えなさい。

- 1、分
- 2、平
- 3、留
- 4、直

《七》 次のA・Bに漢字を入れると四字熟語になります。反対の意味の漢字が入るものをア、オの中から三つ選び、記号で答えなさい。また、それぞれのA・Bにあてはまる漢字を書きなさい。

- ア、  
A 名 B 実  
イ、  
A 四 B 八  
ウ、  
A 肉 B 食  
エ、  
A 者 B 様  
オ、  
A 空 B 絶

